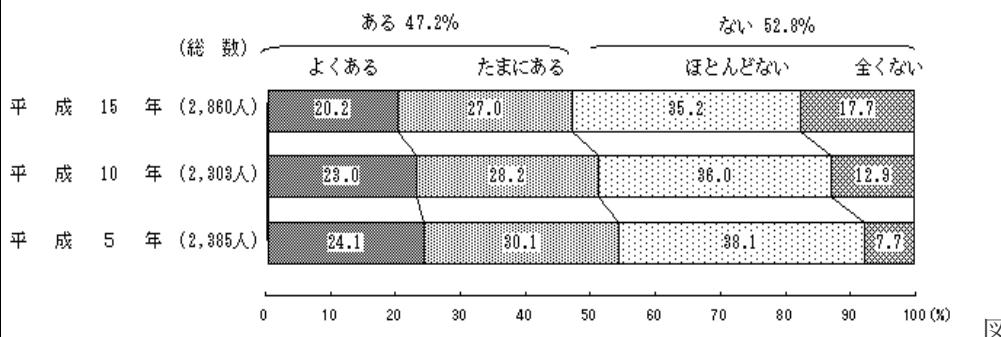
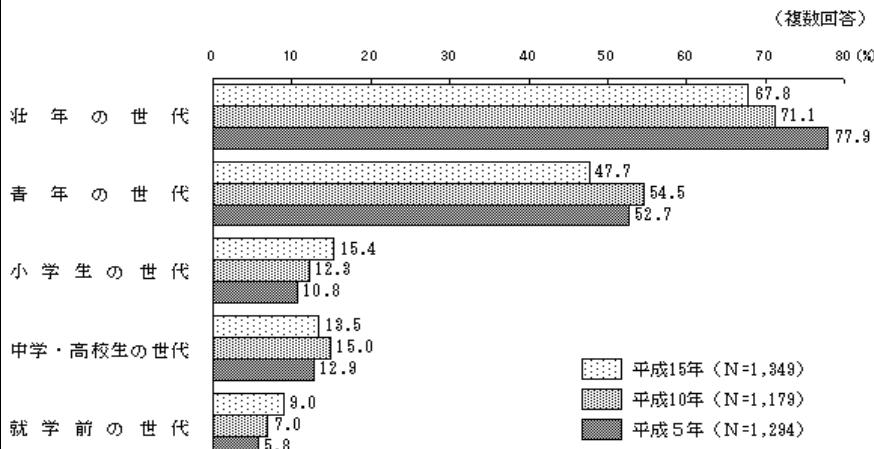


## 事業計畫書

① 団体名	良寛椿の会																																																
②事業名	良寛椿の森 VRプロジェクト～良寛椿の会と地域の若者によるまちおこし～																																																
③テーマ区分	番号： 3																																																
④補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目																																																
⑤現状及び課題	<p><b>1. 本事業を必要とする背景</b></p> <p>(1) 今日の世代間交流の実情</p> <p>世帯構造の変化を見ると、祖父母、父母および子が一緒に暮らす3世代世帯は、昭和29（1954）年には44.6%を占めていたが、平成16（2004）年には9.7%、令和4（2022）年では3.8%と急激に減少している。3世代世帯では当たり前に行われていた高齢者と子ども・若者間の世代間交流が難しいのが現状である。</p> <p>内閣府の「平成15年高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果」4世代間交流についての実態と意識に関する事項においても平成5年平成10年平成15年の調査結果を比較すると15年が一番低い結果となっている。そして、交流の対象では、自分の意思で行動できる世代の中で、中学・高校生が成年、壮年に比べて著しく少ない実情がある。</p> <p><b>図1 他の世代との交流の機会</b></p>  <table border="1"> <caption>他の世代との交流の機会 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>総数</th> <th>よくある</th> <th>たまにある</th> <th>ほとんどない</th> <th>全くない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成15年 (2,860人)</td> <td>47.2%</td> <td>20.2</td> <td>27.0</td> <td>35.2</td> <td>17.7</td> </tr> <tr> <td>平成10年 (2,903人)</td> <td>52.8%</td> <td>23.0</td> <td>28.2</td> <td>36.0</td> <td>12.9</td> </tr> <tr> <td>平成5年 (2,385人)</td> <td>47.2%</td> <td>24.1</td> <td>30.1</td> <td>38.1</td> <td>7.7</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>2 高齢者の交流の対象</b></p>  <table border="1"> <caption>高齢者の交流の対象 (%)</caption> <thead> <tr> <th>世代</th> <th>平成15年 (N=1,949)</th> <th>平成10年 (N=1,179)</th> <th>平成5年 (N=1,294)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壮年の世代</td> <td>67.8</td> <td>71.1</td> <td>77.9</td> </tr> <tr> <td>青年の世代</td> <td>47.7</td> <td>54.5</td> <td>52.7</td> </tr> <tr> <td>小学生の世代</td> <td>15.4</td> <td>12.8</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td>中学・高校生の世代</td> <td>13.5</td> <td>15.0</td> <td>12.9</td> </tr> <tr> <td>就学前の世代</td> <td>9.0</td> <td>7.0</td> <td>5.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 世代間交流の希薄化の影響</p> <p>世代間交流の希薄化は、家族の間の情緒的、物理的な隔たりをもたらすだけでなく、「地域における伝統や文化の継承にも影響を及ぼしている。さらに、介護や育児にかかる社会制度や年金制度、医療保険制度等社会保障制度における財源を巡る世代間利害関係の調整にも影響を与える可能性がある。</p>	年	総数	よくある	たまにある	ほとんどない	全くない	平成15年 (2,860人)	47.2%	20.2	27.0	35.2	17.7	平成10年 (2,903人)	52.8%	23.0	28.2	36.0	12.9	平成5年 (2,385人)	47.2%	24.1	30.1	38.1	7.7	世代	平成15年 (N=1,949)	平成10年 (N=1,179)	平成5年 (N=1,294)	壮年の世代	67.8	71.1	77.9	青年の世代	47.7	54.5	52.7	小学生の世代	15.4	12.8	10.8	中学・高校生の世代	13.5	15.0	12.9	就学前の世代	9.0	7.0	5.8
年	総数	よくある	たまにある	ほとんどない	全くない																																												
平成15年 (2,860人)	47.2%	20.2	27.0	35.2	17.7																																												
平成10年 (2,903人)	52.8%	23.0	28.2	36.0	12.9																																												
平成5年 (2,385人)	47.2%	24.1	30.1	38.1	7.7																																												
世代	平成15年 (N=1,949)	平成10年 (N=1,179)	平成5年 (N=1,294)																																														
壮年の世代	67.8	71.1	77.9																																														
青年の世代	47.7	54.5	52.7																																														
小学生の世代	15.4	12.8	10.8																																														
中学・高校生の世代	13.5	15.0	12.9																																														
就学前の世代	9.0	7.0	5.8																																														

	<p>(3) 良寛椿の会から見た地域の課題</p> <p>玉島においても世代間交流の希薄化は同様の流れの中にある。良寛椿の会は課題を一つひとつ乗り越えながら、会の取り組みに手ごたえ得る一方、活動を振り返る中で、これまでの取り組みをどのように若い世代へ継承できるのか、という次なる目標では、若者との交流が大切であるという認識で一致した。</p> <p>良寛椿の会から見た地域の課題を整理すると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 少子化、高齢化の更なる進行⇒人口減少、世帯単位の縮小、単身世帯の増加⇒地域経済の縮小は倉敷市、とりわけ玉島においても例外ではない。</li> <li>② 玉島のよさ、資源が活かされていない⇒若者に郷土の歴史、伝統が継承されない⇒郷土の魅力の低下⇒若者の都会への流出⇒人材不足</li> </ul> <p>良寛椿の会の会員はほぼ高齢期に達しており、後期高齢者も少なくない。活動を通して人との交流が活発に行われており、個々の会員の職業人生における経験、技術、趣味の域を超えた特技など、知恵や工夫をこらした取り組みが行われている。</p> <p>しかし、若い世代の参加が短歌・俳句全国募集への応募に限られているのが現状であり、世代間交流と言えるほどの活動はない。</p> <p>まちおこしとか地域の活性化とよく耳にする。しかし、希薄化した世代間交流を意図的に作らなければまちおこしも活性化も難しいのではないか。意思能力があり、漠然と将来のことも描き始める、判断力もついてくる中学・高校生との交流が低いことが、その地域の歴史や伝統、文化を伝える重要な時期を失うことにつながっている。</p> <p>広井（2010）は、少子・高齢化と「地域というコミュニティ」のなかで、こう述べている。「・・・人間の「ライフ・サイクル」というものを全体として眺めた場合、「子どもの時期」と「高齢期」という2つの時期は、いずれも地域への“土着性”がつよいという特徴を持っているという点である（これに対して現役世代の場合は、地域というよりは、概して“職域”への帰属意識が大きくなる）</p> <p>ならば、意図的に交流の機会を作る、そして、それは、“「地域」とのかわりが強い人々”=高齢者の側から中高校生に歩み寄ってみることが求められているといえる。この事業に地元の高校が2校、協力を承諾している。</p> <p><b>【参考・引用文献】</b></p> <p>国立社会保障・人口問題研究所 <a href="https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/mainmenu.asp">https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/mainmenu.asp</a> 令和5(2023)年4月26日発表</p> <p>令和5年版 倉敷市統計書 <a href="https://www.city.kurashiki.okayama.jp/41470.htm">https://www.city.kurashiki.okayama.jp/41470.htm</a></p> <p>厚生労働省(2022)「2022(令和4)年国民生活基礎調査」</p> <p>崔恩熙「世代間交流の希薄かがもたらす問題点と交流の必要性」2024.8.25閲覧 <a href="https://caresul-kaigo.jp/column/articles/35045/">https://caresul-kaigo.jp/column/articles/35045/</a></p> <p>広井良典 2010 「コミュニティの公共性」P16-17 『持続可能な福祉社会へ1[公共性の視座から]コミュニティ』勁草書房</p> <p>第一生命 シニア・シルバー世代に聞いた『世代間交流の実態と意識』2004年10月 【<a href="http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/Idi">http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/Idi</a>】</p> <p>○ 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 『世代間関係の意識と実態に関する調査』報告書 2015年6月</p>
⑥事業目的	世代として、現役世代に比べて、玉島に生活と通学の拠点を持つ高校生と定住性が高く、地元の歴史や伝統、文化の知識と愛着を持つ高齢者がタッグを組み、VR・ARなどの技術を用いて、地域の魅力の再発見と地域の活性化を目指す。

	<p><b>事業の狙いと方法</b>は、XR（クロス・リアリティ）を活用する。XR クロス・リアリティとは、現実世界と仮想世界を融合し、新しい体験を創造する技術であるが、本事業では、VR（Virtual Reality：仮想現実）と AR（Augmented Reality：拡張現実）の技術を活用する。</p> <p>この技術を活用することで、「現在の玉島」の現実の世界と、「直接見ることが叶わない玉島の過去と将来」という仮想世界を融合し、新しい体験を創造することをとおして高校生たちの地域への理解と愛着が深まると同時に成果を発表する機会を作り、地元のイベントや小学校、中学校への高校生の出前授業などで活用する。先輩から後輩へと技術が継承され、成果物の質が向上し、広く観光客へも提供できるものになる。</p> <p><b>事業の対象</b>は、玉島にある3つの高等学校に声をかけ、本事業の目的や方法に賛同する作陽学園高等学校と岡山県立玉島高等学校のそれぞれが主には探究活動の時間を活用して実施する。</p> <p><b>活動の拠点</b>は倉敷市玉島であるが、事業の進行過程において玉島に止まらず、倉敷、児島、総社、高梁等に広がる可能性がある。高校生と高齢者が協力し合って取り組む活動と事業の成果である VR・AR の活用によって、他市への広がりも期待できる。備中地域への広がりとして、高校生が玉島の歴史から備中松山藩、高瀬通しや北前船と学びが進む中で、興味、関心が広がり、VR・AR 等の作成に反映され、作品の精度も先輩から後輩へと技術・知識が継承され、観光客の滞在時間や宿泊客の増加にもつながる可能性がある。</p> <p><b>具体的な実施方法</b>として、生徒たちが、VR・AR の技術を習得するための研修の機会や自ら問い合わせ立て、研究を進めるきっかけづくりとして、地域の歴史や特色を学ぶために良寛椿の会から講師の推薦や会からの派遣を行う。作成作業は各高等学校において実施する。</p> <p>なお、情報リテラシー教育は、高校においては基礎教育としてなされている。また、知的財産保護に関する教育も実践されている。VR 作成だけでなく、論文作成においても、授業において学習している。</p>
⑦事業内容	<p><b>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</b></p> <p>国や都道府県レベルの災害対応が行われる場合は、その方針に従う。そのうえで、それぞれの高等学校の天災地変並びに感染症等に対するルールを遵守してもらうことが第一義である。しかし、リモートを活用してできるところはリモートで継続し、中断すべきところは中断し、夏休みや冬休み等を活用する。</p> <p><b>先進性、先駆性、独創性</b></p> <p>本事業の先進性、先駆性、独創性は、XR 技術という先進的技術の活用と、その技術をこれから社会を担う高校生たちが、習得し、同時に地域の文化や歴史を学び、地域に関心を持ち、地域の魅力を再発見し、新たに発信を試みるというプロセスが同時進行するというところにある。そして、そのプロセスにそれぞれに培ってきた高齢者の強みを活用して、コミットしていくことで、玉島だけでなく、我が国において課題となっている世代間交流の希薄化とそれに伴う文化の継承ができない現状に対する改善策の一つになると考える。</p> <p>これらの技術の手法を用いた先行事例としては、岡山県内ではユーチューブに公開されているおかやま観光コンベンション協会による「高松城の戦い」等がある。</p> <p><b>備中地域への波及効果</b></p> <p>玉島は北前船や県の北部と玉島港を結ぶ高瀬通しでにぎわった港町であった歴史を学ぶ過程で、玉島に止まらず、倉敷、児島、総社、高梁などとの結びつきを学び、VR・AR 作成の範囲が広がることで、人の交流が生まれ、これらの地域への観光客の循環につながる可能性がある。</p> <p><b>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</b></p>

	<p>良寛椿の会の構成員は、様々な職業人生や社会活動を行ってきた人たちで構成されており、修得した資格や免許に基づく経験と同時に、比較的自由に使える時間を作っていることも強みである。</p> <p>具体的には、元IT関連エンジニア、現役造園業者、茶道教師、元公務員、元市議会議員、元小・中・高・大学教員、元商工会議所専務理事、郷土史研究者、元社会福祉職等、多種多様な経歴を持っている。</p>															
⑨今年度の事業による直接の結果(アウトプット)及びその評価指標・評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数の達成度</td><td>計画に対する割合</td><td>100%</td></tr> <tr> <td>参加人数の達成度</td><td>参加予定人数に対する割合</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	開催回数の達成度	計画に対する割合	100%	参加人数の達成度	参加予定人数に対する割合	100%						
評価指標	評価方法	目標														
開催回数の達成度	計画に対する割合	100%														
参加人数の達成度	参加予定人数に対する割合	100%														
事業参加者	<p>事業に参加した生徒は、本事業に参加したことにより（1）地域の歴史や伝統、文化に対する関心が深まり、（2）VR・ARの作成のための技術を習得でき、自分たちで考えたVR・ARの作品を完成することができる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学びの達成度</td><td>作品発表をもとに自己評価50点・教員50点</td><td>合計点で算出 70点から100点</td></tr> <tr> <td>作品の完成度</td><td>VR・ARの技術者・椿の会等外部評価者による評価</td><td>70点から100点</td></tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	学びの達成度	作品発表をもとに自己評価50点・教員50点	合計点で算出 70点から100点	作品の完成度	VR・ARの技術者・椿の会等外部評価者による評価	70点から100点						
評価指標	評価方法	目標														
学びの達成度	作品発表をもとに自己評価50点・教員50点	合計点で算出 70点から100点														
作品の完成度	VR・ARの技術者・椿の会等外部評価者による評価	70点から100点														
⑩今年度に期待される成果・効果(短期アウトカム)及びその評価指標・評価方法	<p>事業実施団体</p> <p>(2) 生徒が探究活動に取り組めるハード・ソフト面の環境整備を行う  (3) 成果物発表の環境を開拓する  (4) 最終発表会を<u>玉島市民交流センター</u>において開催し、作品の効果を検証する  (5) まちづくりの観点から、今回のプロジェクトがどのような効果をもたらすのか、専門家を交えてシンポジウムを開催する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハード面の整備状況の達成度</td><td>高校生へのアンケート</td><td>満足・やや満足が8割</td></tr> <tr> <td>公開のための環境整備の達成度</td><td>公開先の確保数</td><td>確保予定先の8割</td></tr> <tr> <td>発表の場で作品の効果を検証する</td><td>公開を依頼した機関等にアンケート</td><td>評価する・概ね評価する7割</td></tr> <tr> <td>シンポジウムでプロジェクトの効果を検証する</td><td>シンポジウムでアンケートを実施</td><td>評価する・概ね評価する7割</td></tr> </tbody> </table> <p>備中地域</p>	評価指標	評価方法	目標	ハード面の整備状況の達成度	高校生へのアンケート	満足・やや満足が8割	公開のための環境整備の達成度	公開先の確保数	確保予定先の8割	発表の場で作品の効果を検証する	公開を依頼した機関等にアンケート	評価する・概ね評価する7割	シンポジウムでプロジェクトの効果を検証する	シンポジウムでアンケートを実施	評価する・概ね評価する7割
評価指標	評価方法	目標														
ハード面の整備状況の達成度	高校生へのアンケート	満足・やや満足が8割														
公開のための環境整備の達成度	公開先の確保数	確保予定先の8割														
発表の場で作品の効果を検証する	公開を依頼した機関等にアンケート	評価する・概ね評価する7割														
シンポジウムでプロジェクトの効果を検証する	シンポジウムでアンケートを実施	評価する・概ね評価する7割														

	<p>(7) 成果物の発表を、円通寺、北前船や高瀬通の起点の玉島を中心に倉敷市観光課のホームページや美観地区の観光スポットにて紹介することで、観光客の興味や関心を喚起できる。</p> <p>また、玉島テレビや山陽新聞等のメディアにおいて、ユーチューブを通じて広報活動を実施する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th><th>評価方法</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H.P. 等アクセス回数 ゴーグル利用頻度</td><td>アクセス回数 ゴーグル利用回</td><td>20／日（1メディア） 5／日（1個につき）</td></tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	H.P. 等アクセス回数 ゴーグル利用頻度	アクセス回数 ゴーグル利用回	20／日（1メディア） 5／日（1個につき）
評価指標	評価方法	目標					
H.P. 等アクセス回数 ゴーグル利用頻度	アクセス回数 ゴーグル利用回	20／日（1メディア） 5／日（1個につき）					
⑪将来的に期待される成果 ・効果 (中・長期アウトカム)	<p><b>事業参加者</b></p> <p>事業に参加高校生たちは、良寛椿の会との交流をきっかけに、地域の人との交流の範囲が広がるとともにその高校生たちの作品から各高校の他の生徒たちに興味や関心を持つ生徒が増える。新一年生がこの授業の継承者として育つ。</p> <p>生徒がVR・ARの技術を習得し、その成果物を地域に還元する過程で、地域の魅力の発見と地域への貢献ができることで、地域に止まる生徒や将来他府県に出て知識や技術、経験を養い帰ってくる生徒も出てくるなど、生徒たち意識に郷土への愛着が生まれる。</p> <p><b>事業実施団体</b></p> <p>良寛椿の会は、高校生たちに地域の歴史や文化の伝達と同時に会員の経験や知識を伝えることができる。</p> <p>高校生の作品を倉敷市観光課や良寛荘、美観地区、大都市のアンテナショップにて活用することで、継続的に観光客へのアピールができることで、まちづくりの一環を担える。</p> <p><b>備中地域</b></p> <p>作品の中で玉島だけでなく、高瀬通の研究から高梁川流域の市町の関わりが再発見されることで、関心の広がりを期待できる。</p> <p>成果物を倉敷市ホームページ（観光）での紹介やユーチューブでの公表、倉敷観光案内所、玉島・倉敷の朝市、良寛荘での成果物の公開等、玉島だけでなく広がりを期待できる</p>						
⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定 (資金確保の見通し等)	<p>本事業は、玉島高校・作陽学園高校とともに新1年生に継承と新たな探究活動の時間に従来作品のシェイプアップと新テーマへの取り組み実施が行われる。そのため、担当教師の交代等があった場合でも、活動に支障はないと考えている。</p> <p><u>高校生からの意見を聴取し、必要に応じて、VR・AR・ビデオ編集等の技術のプラッシュアップのため専門家の助言を得るための機会を設ける。また、郷土の歴史、文化についても対応する。</u></p> <p>今回の活動を通じて得られた知識の蓄積こそ、若者への最大の継続性ではないか考える。</p> <p>今後も①活動報告会をシンポジウム形式で行うなど、機会をとらえて実施する、②作品の視聴室の設置、③メディアを活用しての作品広報活動を働きかけるなど、活動初年度に良寛椿の会で『仕組み』の構築を行い、以降の事業継続を可能とする仕組みづくりを行う。</p> <p>資金については、本支援事業に2回目の申請を行うとともに資金のかからない、市の広報活動の一環に組み込んでもらう。玉島商工会議等の活動の中に組み込む、など協力を申し出てくれる組織から確約を受ける予定である。</p>						